

福田(充)ゼミナール- メディア調査法



■授業の目標

マスコミ、メディアの効果・影響を社会調査や実験で実証する。



教授

福田 充 (44歳)

Mitsuru Fukuda

担当科目 メディア調査論, ジャーナリズム演習IV(危機管理), コミュニケーション理論, 社会科学方法論

略 歴 1969年兵庫県生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得退学。慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所研究員, 常磐大学人間科学部専任講師等を経て2010年より現職。2008年より米国コロンビア大学客員研究員を兼任。

著 作 『メディアとテロリズム』(新潮新書)
『テロとインテリジェンス～覇権国家アメリカのジレンマ』(慶應義塾大学出版会)
『リスク・コミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』(北樹出版)
編著『大震災とメディア～東日本大震災の教訓』(北樹出版)
共著『テロ対策入門』(亜紀書房)
共著『The Global Journalist in the 21st Century』(ROUTLEDGE)

ゼミナールの概要

<http://homepage3.nifty.com/fukuda326/>

メディアやマスコミに関する諸現象を解明するために、必要な理論やモデルをもとに社会調査を行い、データに基づいた議論を行う。ゼミ生各自が自分の自由な研究テーマを持ち、卒業論文を完成させることを目標とする。個人研究発表、社会問題に対するディスカッション、ゼミ共同研究作業、ゼミ誌作成などを中心に行う。学問だけではなく、ゼミ生自身の主体的な運営による人間的な共同体を目指す。

開 設 平成15年(2003)

在 学 生 数 4年生 男3名・女2名, 3年生 男3名・女5名

機 関 誌 オピニオン誌『日本公論』を年1回発行。

研 修 合 宿 年2回行う(夏休み1回, 春休み1回)。

サブ・ゼミ 正規のゼミナール時間以外にも週1～2日はサブ・ゼミで拘束される。

卒 業 生 数 64名(男27名・女37名)

就職先・進路 毎日新聞, 共同通信, 日本放送協会(NHK), 山形放送, 日刊スポーツ出版社, 電通テック, ビデオリサー
チ, PHP 研究所, エイベックス, バンダイ, JTB, ユニクロ, Jcom ブロードバンド, ソフトバンクなど。

入室要項

募 集 人 員 10～15名程度募集する。

選 考 方 法 ①エントリーシート, ②面接, ③学業成績。

重 視 項 目 共同研究に必要な協調性, 研究意欲, 行動力のバランス。社会問題への関心。「メディア調査論」, 「ジャーナリズム演習IV(危機管理)」のいずれかを必ず履修していること。入室に関する詳細は, 福田充研究室ホームページを必ず参照のこと。

メ ッ セ ー ジ マスコミ, メディアなどの表現に関わるプロを目指し, 主体的で, 能動的, かつ協調性のある学生の参加を求めます。ゼミでしか味わえない感動や苦しみをともに分かち合いましょう。